
TRANS(トランス)

白川 みづき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トランストラ ns

【Zコード】

Z0595D

【作者名】

白川 みづき

【あらすじ】

物語の主人公は、大阪府吹田市の江津西中学校3年生ゴリ。圧倒的の強さをもつたゴリの周りでさまざまな喧嘩や出会い、友情、笑い、涙が巻き起きる。彼らは何の為に喧嘩をしているのか?何故強くなりたいのか?そこにあるものは?

第1話・江津西ランキング

大阪府吹田市江坂に江津西中学がある。この物語の主人公はその中学の3年、「コ」こと呼ばれる坊主頭の男だ。

3年の初日。
「ゴリ」と同じクラスのお洒落なパーマをあてたショウが教室で話をしていた。

「転校生? こんな時期に?」

「ホンマやつて! なんか尼崎の方からうしいで。」とショウが言った。

「クラスは?」

「3組や!」

「なんや1組ぢやうんか。」とゴリが言つと間髪入れず、ショウが
「まあ、どうせ男らしいからそんなに落ち込むなや。」と言つた。
「男なん? ほんならどうでもええわ…。」とコリは右手をアゴにあ

て外を眺めた。

その日初めてのチャイムが鳴った。

… 3組

「転校生の白川 勇輝くんです」と先生が自己紹介をした。
すると、かるい金髪リーゼント頭のコウキが一步前にでた。
「1の学校で一番強いヤツは誰や!...」と、大声で怒鳴つた。
するとソフトモヒカン頭の小太りの1人の男が席を立つた。「お前
…」とその男が目を閉じ小さく呟いた。

「お前が一番強いんか!...」とコウキが言つと、男が目を開け
「調子にのつてんぢやうぞ!...」と怒鳴りかえしコウキの方に走つ

ていった。

その日の放課後。3組

「で？ その転校生は？」

「リョウチンにボコボコ」

「マジで！ ハツハツハハハハハハハハ！」

すると教室にユウキが入ってきた。「よつー。転校生大丈夫かあ？」と声を掛けたは背の高いテルだった。

「なんやねん！」とユウキはうつとうしきうに言つて。

「まあまあ！ そりゃカリカリすんなや。仲良くしようや。」

「あん！？」とユウキがテルを睨むと

「お前！ 根性ありそりやし、この学校で強いヤツを教えたるわ。」

と言いテルはユウキの肩を叩いた。

すると茶髪の背の低いトミーが黒板の前に立ち説明しだした。

「ええか？ まずはお前が負けたりョウチンはうちの10番

「10番？」とユウキはあっけにとられた。

「次に：

9番は1組のショウ

8番、2組のアベ

7番は俺

6番、4組マンゾウ

5番そこにおるテル」とトミーが言つとユウキはテルの方を見た。するとテルは得意気にユウキにむかいピースをした。

「じゃあ次からは別格ゾーン！」

4番、3組のタイキ

3番、4組のようすけ

2番、2組のかーとやな！

ここからはドングリの背比べや。

こいつらにはケンカ売らん方がお前の為や。1年の時に、3年10人を病院送りしたり、2年の時高校生相手にケンカしたり、なんせめちゃくちゃやー」とトミーがコウキに言つとテルが黒板に向かいチョークを取り

「そしてそんな別格な3人をはじめ俺たちをまとめてるのが…1組の『ゴリ!』と大きな字で書いた。

「『ゴリの強さは半端ぢやうで！からだическиだけじゃなく、空手、柔道はじめ、締め技やケンカのセンスもめちゃくちゃええ、まじでありえへんくらい強い』」

とテルがチョークを置くとコウキは口を開いた。

「俺は尼崎の学校でN○2やつたんやぞ…そんな俺が圈外つて…悔しそうにコウキが言つと、

「まあ。気にすんな！上には上があるからな。ハツハツハハハ！」

とトミーが笑いながら帰る用意をしだした。

「まあ！校内でのケンカはやめとけ！どいつもこいつもそこそこ強いから。仲良くなこうやー」とテルも帰る用意をしだした。すると教室のドアが勢いよく開いた！

バーン！！

3人はビックリしてそつちに目をやつた。

そこには茶髪のロングをなびかせた女の子が立っていた。

「トミー！テル！カート見いひんかつた？」と怒りながら女の子は言つた。

「…部活ちやうかな…」とトミーが苦笑いしながら言つと、

「部活に行つてなかつた。」と女の子は答えた。

「じゃあ…」

とテルは上を指さした

女の子は天井を見つめ

「屋上…？」と言つそのままいそいで立ち去つた。

「今のは？」とヨウキが呆気にとられながら言った。

「今のは校内N○1のカワイイ子やけど怒らしたら怖い女子N○1

…」とトニーが言った。

「ちなみに2組カートの彼女のマイリン。あれに逆らつたら女子みんな敵になるから要注意…」とテルが言った。

「そりなんやあ…（俺とんでもない学校に転校してきたかも…）」とヨウキは下を向き帰る用意をしだし。

そして3人は帰った。

その日の夜、江津公園

「お前何で部活こんかつてん？」と言つたは背の高いロン毛頭のヨウスケだった。

「ああ…江津中のウェポンとケンカしてた。」と言つたのは短め茶髪に帽子を横向きに被つたカートだった。

「またかあ！？お前ら好きやな！

「で？どつちが勝つたん？」とヨウスケは呆れてたように言った。

「俺…」「2勝1負かあ…またアイツお前にケンカ売りに来るな！ハツハツハハハ！」とヨウスケは笑いながらカートの肩を叩いた。

「売つてきたらまたボコボコにしたるわ！」

「まあ…ケンカもええけどバスケ出来る程度にな！」

「わかってるわ！」

「俺ら夏、全国行けるかな？」と言いながらヨウスケは夜空を見上げた。

「当たり前やろ！俺ら上手いし。」

「相変わらずその自信どつからくんねん。全中となるとそんな自信つくんやな。」

「まあな！大阪選抜止まりと違つから。ハツハツハハハ！」とカートは笑いながらヨウスケの肩を叩いた。

「お前しばぐぞ！」とヨウスケは言いカートを冗談で睨んだ。

すると一人の背後から大人の男の声が聞こえた。

「健全な中学生がこんな時間に何してんねん！？」

二人はビックリして振り返った！

「松さん！？」と二人はさらにビックリして声をあげた。

それは吹田警察所の松さんだつた。「すいません！すぐに帰りますんで…」とヨウスケは言いすぐに立ち去ろうとした。すると

「カート！？」と松さんは呼び止めた。

「なんすか？」とカートは振り返つた。

「お前、最近暴走族狩り起きてるん知ってるか？」

「あつ！はい…。確かに吹連の『忍』がボコボコされて単車燃やされたりしてるみたいですね。」

「そうや…それでや！暴走族のチーム『忍』がな、吹田連合の全チーム集めて動き出してんねや。」

「それで…」

「暴走族のヤツらがそいら探しまわってんねんや。」

「へえ…その暴走族狩りしてるやつらは誰なんですか？」

「何処の連中か、誰かはわからん。ただ情報としてそいつらは通称『白』って呼ばれてるんや！その暴走族狩りは全員、白ハンカチ頭や腕に巻いてんねや。」

「ハンカチ？」とカートが考えると

「バンダナの事やろ！」とヨウスケがカートに言つた。

松さんは自分が間違つた事に気付き恥ずかしそうにした。

「まあ…どつちでもええわ！お前らその『白』の事なんか知つてるか？」

「さあ…？」とヨウスケが言つと

「そうか…そうやつたらええわ。ただお前ら気付けや…」と松さんは意味深に一人に言つと。

「どう言つ事ですか？」とカートはさつきまでの穏やかな目付きから一変し松さんを睨んだ。

「まあ、中学生のお前らがしゃしゃり出ると痛い目にあうひゅうう事

や！」

「わかつてますよ。じゃあ俺ら帰るんで。」とヨウスケは言い一人
は家帰つた。

それから1ヶ月の月日がたつた！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0595d/>

TRANS(トランス)

2010年11月28日09時10分発行